

# 第51回衆議院議員総選挙の取り組みを終えて

～ 組合員・ご家族そして支援して頂いた全ての皆さんへ ～

2026年2月8日、第51回衆議院議員総選挙が投開票されました。私たちは日本輸送サービス労働組合連合会（以下、JTSU）議員懇談会から7名の推薦候補と八王子地方本部から1名の推薦候補並びに1名の支持候補を擁立し、必勝に向けて取り組んできました。

結果は全員「惜敗」となり、JTSU発足以降類を見ない悔しい結果となりました。この間、衆議院総選挙に注目し、投票日まで数多くの取り組みにご協力いただいた組合員と家族の皆さん、そして支援して頂いた全ての皆さんに心から感謝申し上げます。

今回の衆議院選挙は、高市首相の高支持率を背景に自・維連立政権の是非を問うという大儀のもと、衆議院議員解散から戦後最短・超短期決戦の選挙となりました。そしてこれにさらに拍車をかけるようにして、立憲民主党と公明党が選挙協力し「中道改革連合」が結党されましたが、JTSU推薦議員はもとより組合員やご家族、そして全国の有権者にも疑惑暗鬼が生じる中での異例尽くしの解散総選挙となりました。そのような情勢のもと、非常に難しい判断を迫られる中ではありましたが、JTSUの政策実現に向けて推薦・支持議員の全員の必勝に向けて取り組んでいく事を決めてきました。

この短期間の衆院選では、これまで幾度も経験してきた経験をふまえてJTSU議員懇談会所属の推薦議員全員と政策協定確認書の締結を行い、各地方本部が中心となり組合員・家族と支援者が一緒になって取り組みを展開出来たことは、JTSU結成5年間で積み上げられた「力」が原動力であったことは間違いないありません。そして、その「力」は地域からも高く評価されていることを取り組みに関わって頂いた全ての仲間と確認したいと思います。

投開票の結果は、高市首相が率いる自民党が総定数465議席の3分の2を超える316議席を獲得しました。そして、首都圏（東京、千葉、神奈川、埼玉）においては、1名以外は全て自民党が制しました。私たちは、首都圏で働く輸送サービス業を中心にした組織である以上、この現実から目を逸らさずに向き合う必要性があることを明確にします。

JTSUが抱える課題はJR東日本会社から未だに続く不当労働行為、労使自治の問題、常磐線全線開通に伴う総合労働政策（最終報告）の実現、少子高齢化に起因する赤字ローカル線の問題、首都圏ワンマン運転の問題、理不尽なJR東日本会社の対応による労働委員会を活用した取り組みなど多岐にわたり山積しています。これらの課題は公共交通に関わるものであると同時に「社会問題」でもあり、その管理監督は政府の各省庁である以上極めて政治的な課題でもあります。よって今後もJTSUは、「社会問題を解決する労働組合」として地道に取り組んでいくことが、ひいては安全・安心な輸送サービスを提供することに繋がっていくものと確信します。

そして高市首相は、衆院選当日の会見で「憲法改正は党是」と言い、憲法改正にも意欲を示しています。私たちは昨年の「戦後80年」に際し、憲法9条を順守し「鉄の暴風吹かせない」「新しい戦前にはしない」「子どもたちに平和な社会を未来へ『つなぐ』」ことを誓いました。世界各地で多くの尊い命が戦争の犠牲になる中で、平和で安心して暮らせる未来社会の実現に向けてJTSUは取り組んでいきます。

最後に、今回の衆院選で英断し奮闘して頂いたJTSU議員懇談会所属の推薦議員ならびに地方本部が推薦・支持した議員は、今後も「社会問題の解決」に向けて共に歩んでいく“JTSUの仲間”であることに変わりはありません。これからも組合員・ご家族ならびに地域の皆さんとの声に基づき、職場や地域から「社会問題を解決」する力を醸成し、平和で希望が持てる社会と安全・安心な輸送サービスをみんなで創造していきましょう。

改めて、衆院選の取り組みに多大なるご支援・ご協力を頂きありがとうございました。

2026年2月14日  
日本輸送サービス労働組合連合会